

糖尿

「糖尿病」により血糖値が高くなり尿糖が陽性となる場合と、血糖値が高くないにもかかわらず尿糖が陽性となる「腎性糖尿」とがあります。

糖尿病による腎障害（糖尿病性腎症）は年々増加しており、成人の維持透析新規導入の第一位となっています。小児では1型糖尿病が多く、糖尿病発症後5年頃から微量アルブミン尿を認め、10～15年で蛋白尿の増加に伴い腎機能が低下し、その約半数は10年以内に末期腎不全に至ります。

通常糸球体で濾過されたブドウ糖は全て尿細管で吸収されて血液中に戻りますが、腎性糖尿の場合、尿細管に障害があり、ブドウ糖を再吸収する能力が低下しているために尿中に糖が漏れ出てしまいます。通常は、何の症状も見られないために治療の必要もありません。しかし、ファンコニー症候群などの尿細管疾患である可能性もあるために注意が必要です。